

第42回 渋谷区くみの広場 渋谷フェスティバルへ出展しました

11月2日と3日の2日間、代々木公園にて行われた10万人規模の大イベント『くみの広場』に参加しました。出展ブースではリハビリの歴史の掲示をはじめ、PTは装具や転倒予防の体操紹介、OTは握力測定や自助具の紹介、STは食べやすい食事の分類や嚥下体操、早口言葉の体験をおこないました。昨年は100人だった来場者も今年は300人を超えました! たくさんの人にリハビリテーションを知ってもらえる機会となり参加したスタッフも充実した2日間になりました。次回開催の際はぜひお立ち寄りください。



令和初新年

12月28日に、毎年恒例のもちつき大会を行いました。今回はふなばし産品ブランドPRキャラクター「目利き番頭船えもん」が登場し、患者さまやご家族ともふれあっていただくなど、スタッフと一緒にもちつき大会を盛り上げていただきました。院内には凧や門松を飾り、食事にもお屠蘇を振舞うなど、入院中の患者さまにも新年を感じていただけるようにいたしました。令和になって初めての年始を迎え、気持ちも新たに、日々皆様に喜んでいただけるよう取り組んでまいります。



第6回 ケアマネージャー交流会 開催

12月12日木曜日、船橋市リハビリセンターにて第6回ケアマネージャー交流会が開催されました。

当センタースタッフのPTより「住環境の整備に対してセラピストができること」と題したミニレクチャーや、意見交換会としてグループトークなどを行い、参加者からは「見識が広がった」「顔が見える関係作りができよかった」との声が多数寄せられ、大盛況となりました。



6回目となるST利用者交流会【実りの会】が開催

11月23日(土) 6回目となるST利用者交流会【実りの会】が開催され、約40名の利用者さまにご参加頂きました。司会は音声障害を克服された方が担当し、詩吟や歌唱の発表、油絵や書道等の作品展示、失語症の方の講演会、訪問リハを利用されている方の在宅生活を収録したビデオ上映会などが行われました。今年のテーマは『いざ! 大海原へ』。当日ご参加できなかった方も含め75名の利用者さまがそれぞれの希望を書き込んだ「さかな」を貼り付け、大きな一匹の「希望の魚」となって大海へ泳ぎだしました。



私たちのセンターのご利用者がゴルフサロンを立ち上げました

参加者はゴルフに興味のある一般の方やスタッフ5~6名。月1回近隣のゴルフセンターで賑やかに打ち合っています。代表の方は元ゴルフツアーのコーチをしていた方なので、頂くアドバイスは本格的です。時には当センターでセミナーを開催。各々フォームの確認や、動きのメカニズムについて学び合います。

本格的にゴルフが上手になりたい方、または仲間同士楽しみたい方は是非ご連絡ください。(受付: ケアマネージャー 佐藤 03-6692-6563)



季刊情報誌「輝NET」 編集・発行 医療法人社団 輝生会 本部/〒110-0015 東京都台東区東上野1-28-9 5F <http://www.kiseikai-reha.com>

初台リハビリテーション病院	〒151-0071	東京都渋谷区本町3-53-3	TEL.03-5365-8500	http://www.hatsudai-reha.or.jp
船橋市立リハビリテーション病院	〒273-0866	千葉県船橋市夏見台4-26-1	TEL.047-439-1200	http://www.funabashi-reha.com
船橋市リハビリセンター	〒274-0822	千葉県船橋市飯山満町2-519-3	TEL.047-468-2001	http://www.funabashi-rehacen.com
在宅総合ケアセンター元浅草	〒111-0041	東京都台東区元浅草1-6-17	TEL.03-5828-8031	http://www.motoasakusa-reha.com
在宅総合ケアセンター成城	〒157-0072	東京都世田谷区祖師谷3-8-7	TEL.03-5429-2292	http://www.seijo-reha.com

本誌へのご意見ご要望はメールにてお寄せください。 contact@kiseikai-reha.com



kisei・kai
情報誌



拠点それぞれの2020年抱負

初台リハビリテーション病院 院長 菅原英和

当院は回復期リハ病棟としての役割を担うべく、重症者にも対応できる医療・リハケア体制の整備、スタッフの量的および質的充実に向けた教育研修体制の構築、チームアプローチの徹底や情報共有の強化、急性期病院および地域医療・介護との連携推進、生活期リハの充実等、様々な取り組みを組織的に整備・実践してきました。2020年の新しい年を迎えてからも、これらの取り組みを真摯に実践し、現状に満足することなくさらに発展させてゆきたいと考えております。



船橋市立リハビリテーション病院 院長 梅津博道

昨年は令和元年、台風被害、ラグビーワールドカップなど、話題の多い1年でした。中でもラグビーは、選手たちから熱い戦いと素晴らしい結果を通して、ファンは大きな感動や勇気を貰い、彼らのチームスローガンである「one team」は昨年の流行語大賞になりました。

アスリートには遠く及びませんが、私たちも「流した汗は裏切らない」と信じて日々努力を続け、今年も皆様の期待に応えられるように「one team」で精進して参ります。



在宅総合ケアセンター成城 センター長 堀見洋継

私の新年の抱負は2つです。1つ目は、職員に対して、昨年作った当センターのミッションを発信し続けることです。「我々のサービスは顧客に何をもたらそうとしているのかを、いつも念頭に置きましょう。我々はリハビリテーションを提供しているのではなく、それを通して、顧客に安心と信頼、そして誇りをもたらすのです。」

2つ目は、リハビリテーションを通して、顧客のよりよい習慣作りを支援するということ、今まで以上に意識してやっていきたいということです。「習慣はその人の運命をかえる」という言葉を信じて。



在宅総合ケアセンター元浅草 センター長 齊木三鈴

2019年は、元浅草にとって病棟閉鎖という大きな変革があった年でした。地域の方々やスタッフに大変ご迷惑をおかけしましたと共に、理解し支えて下さった皆様に感謝申し上げます。

病棟はなくとも、私たちは従来通り地域に寄り添う診療所として、多職種協働のチームアプローチで地域の方々に支えてまいります。また台東区では「たいとう地域包括ケア推進協議会」が活動を開始していますので、私たちは2020年も地域リハ支援センターとして、台東区の皆様がより良い医療・ケア・リハを受けられる体制づくりに貢献してまいります。



船橋市リハビリセンター センター長 石原茂樹

船橋市リハビリセンターでは、クリニック事業、訪問看護事業、リハビリ事業、地域リハビリ拠点事業の4事業を行い、開設後6回目の正月を迎えました。センターを利用される患者さまも年々増加しています。今年も「寝たきりにしない」ことをモットーに、スタッフ一同丸となって活動していきます。

また、船橋市における地域包括ケアを支える活動として研究大会や勉強会などを開催し、啓発活動に積極的に取り組んでいる地域リハビリ拠点事業の更なる充実を目指してゆきたいと思っています。



輝生会の
基本理念と方針

■「人間の尊厳」の保持
■「主体性・自己決定権」の尊重

■「地域リハビリテーション」の推進
■「ノーマライゼーション」の実現

■「情報」の開示

輝生会における
患者さまの権利

■ 人権を尊重される権利
■ 自分の診療の情報や記録を知り、求める権利

■ 最善の医療を受ける権利

■ 自らの意思で選択・決定する権利

■ プライバシーの保護を求める権利

RUN伴2019参加報告

RUN伴(とも)とは？

認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを目指して、認知症の人もそうでない人も、みんなでタスキをつないで、日本を縦断するプロジェクトです。RUN 伴ホームページでは2019年の参加者が公開されており、通過した都道府県数“36”、通過した市区町村数“503”、ランナー数“19446”と、年々規模が拡大している全国的にも非常に注目度の高いイベントになっています。輝生会の施設が立地する東京都・千葉県でも、RUN伴の理念や主旨に賛同した方々が「みんなをまきこんで、地域を盛り上げよう!」という思いで集まり、企画が始まりました。そこには利害関係はなく、ただ純粋に「みんなで認知症の人を支えたい」「だれもが排除されない優しい地域を作りたい」という思いで集まり、実行委員会が結成されています。

輝生会の取組み

今年は、初台リハビリテーション病院、船橋市立リハビリテーション病院、船橋市リハビリセンターの3つの施設が参加しました。

初台リハビリテーション病院は、10月19日に東京都渋谷区で開催されたRUN伴2019に、職員9名で参加しました。区内5か所のスタート地点から一斉にひとつのゴール(今年はキューピー本社前)を目指します。初台リハビリテーション病院チームは「つばめの里・本町東」をスタートし、約5kmのコースを歩きました。最後は参加者全員で、渋谷MODIからスクランブル交差点、宮益坂を「認知症の方へ

船橋市立リハビリテーション病院実行委員からのRUN伴2019レポート

船橋市は毎年エントリーチーム・参加者共に千葉県内でもトップクラスで、街中をランナーがオレンジの T シャツを着て走る路上ランや、皆で集まって行うゴールイベントなど、毎年とても盛り上がっています。船橋市立リハビリテ



のやさしい街づくり」をアピールしながら練り歩きを行ないました。当日は雨にも降られることなく、多くの方に注目してもらうことができました。初台リハビリテーション病院では、昨年からオレンジカフェ(認知症カフェ)「カフェサパン」の運営支援も行っているので、来年度は認知症の当事者も一緒に参加してもらえるように勧めていきたいと考えています。

船橋市リハビリセンターでは11月2日、船橋市内の東部地区のコースに、職員8名と利用者さま1名の合計9名で参加しました。東部地区参加者の最高齢は104歳で、たいへん元気な姿を私たちに見せてくださいました。このコースの伴走者もセンターの職員が務め、ランナーの安全確保とイベントの盛り上げ役を担いました。船橋市立リハビリテーション病院からは、実行委員から詳細なレポートをお送りしたいと思います。



ゴール風景＝お疲れさまでした

ション病院からは、中部地区のコースを先導する伴走者と救護ナース、ランナー7名が参加しました。また、患者会である「コンパスの会」からも1名加わり、一緒にイベントを楽しみました。



路上ランでは3名以上のグループで500m～3kmの区間を走ったり、時にはゆっくり歩いたりしながら、次のグループにタスキを渡していきます。ランナーを務められた方々には、タスキに名前を書いていただきました。ゴールする頃にはタスキ一杯に名前が書かれ、それを見るとこのイベントに参加された、たくさんの方の想いを感じました。

船橋市中部地区のコースは約13kmあり、桜の名所としても有名な海老川の遊歩道も通ります。その途中には、野外彫刻やバルセロナオリンピック銀メダリストである有森裕子さんの足型などもあり、この区間のランナーを務められた市内のデイサービス利用者の皆さんも、この景色を楽しまれていました。船橋は、“船”・“橋”という、水辺に関係した言葉で成り立っています。船橋の地名の由来はその昔、景行天皇とその皇子である日本武尊(やまとたけるのみこと)がこの地を訪れた際に、この海老川に船を並べて橋をつくり、一行をお通ししたことにあるとも言われてい



ます。そんな由緒あるコースも通り、ゴールへ向かいます。

ゴールイベントでは、認知症の当事者の方や船橋市長が参加し、陸上競技場のトラックを「ウォーク」しました。その後、市内の介護士さんを中心に結成された郷嵐会(きょうらんかい)による太鼓の演舞が行なわれました。また、「ゆにい〜くあんどぴい〜す」という、こちらも地元船橋市で誕生した「世代や障がいの有無など個々の違いを認め合う」をコンセプトにした劇団による、歌とダンスの披露がありました。

当日は晴天にも恵まれ、空の青と草木の緑にテーマカラーのオレンジが良く映える最高のコンディションとなりました。参加者のお一人からは「とにかくこうして皆で何かをするのが楽しいです。もっと沢山の方にこのイベントに参加してもらって、つながりや達成感を感じてもらいたいです。」という感想がありました。私も、自分たちの働く地域にハートのあふれた方々がこんなにたくさんいるんだ、そう思うだけでとても誇らしく、そして自分も頑張っていきたいという気持ちになります。この街と、そしてここに暮らす人たちのことを好きになって、お互い支えあっているという感性は、病院の中で働いているだけでは育ちません。医療と生活両方の視座が求められるリハビリテーション関連職にとって、そのような感性を磨いていく事は、自らの使命・目的・役割・存在意義について考え、行動に移すことにつながるのではないのでしょうか。RUN 伴の活動が、住みやすい社会をつくることにつながると信じて、来年度以降も何かしらの形で参加していきたいと思っています。



次回もRUN伴を楽しみましょう!!

船橋市立リハビリテーション病院 地域連携推進委員会 御代川英己